

公共図書館がおこなう マルチメディアDAISY図書の体験会

新潟県立図書館
有本教子

はじめに

2016年4月の障害者差別解消法施行に伴い、新潟県立図書館では、同年3月から対面朗読サービスをはじめました。今年度（2018年）はサピエ図書館に加入するなど、新たなサービスを開始しました。

また、障害者サービスの拡充に努める中で、県立図書館が行っているサービスを周知するとともに、文字が読みにくいと感じている方の読書を支援するため、「マルチメディアDAISY図書体験会」を実施しました。

その体験会の様子をご紹介します。

マルチメディアDAISY図書体験会

体験会は、館内入口脇のエントランスギャラリーで2日間（平成30年4月29日、30日）にわたって開催しました。体験会の前後（平成30年4月24日～5月13日）には、「マルチメディアデイジー図書を知ろう！」と題した展示を行いました。



マルチメディアDAISY図書の、音声と絵と文字を一緒に読むことができる特長やその活用方法を説明したパネルなどを掲示するとともに、大型モニターでマルチメディアDAISY図書（わいわい文庫「日本昔話の旅」シリーズ）の上映を行いました。



体験会の2日間だけでなく、展示期間中にもマルチメディアDAISY図書を

体験してもらうことで、紙以外の媒体での読書について、より理解を深めていただけたものと考えます。

体験会では、公益財団法人伊藤忠記念財団よりiPad 6台と「障害体験キット」6セットをお借りし、活用させていただきました。体験会の案内チラシを新潟市内小学校、特別支援学校の児童と、県内公共図書館、関連施設へ配布したことや、報道機関が関心を寄せてくださり、地元新聞やテレビなどに取り上げられたこともあり、200人近くの参加を得て、意義深い会となりました。

体験会には、親子連れや、友達同士（小学生）、学校教職員、図書館職員、障害のあるお子さんのいるご家族や、ボランティア（点字・音声訳）など、多岐にわたる方が参加してくださいました。

参加者には、最初に「障害体験キット」を使ってもらい、本を読むことがむずかしい状況を疑似体験してもらいます。その後、約400冊のマルチメディアDAISY図書が入っているiPadを用い、文字が読みにくい状況でも、マルチメディアDAISY図書なら画面の設定を変えるなどして、一人ひとりが一番読みやすい設定で読書ができることを体験してもらいました。



職員が、iPadなら大量の本を簡単に持ち運びすることができ、画面の設定を変更することで、自分の好みに合わせて読書を楽しむことができることや、読むことが困難な人が、それぞれの障害にあった効果的な読書をすることができることを説明すると、参加者は熱心に説明を聞いてくださいました。実際にiPadを体験していただいたところ、体験時間の平均は30分程度でしたが、なかには1時間近く読書を楽しむお子さんもいらっしゃいました。

体験後、参加者からは「子どもの通う学校の先生や、弱視のお友達にも教えたい」「高齢者でも読書を楽しむことができるので、両親に紹介したい」「図書館で貸出サービスが始まることを希望する」といった感想が寄せられました。

その他の取り組み

体験会の後、学校の先生に向けての情報発信として、県内特別支援学校校

長会においてマルチメディアDAISY図書を利用した新しい読書の楽しみ方を紹介しました。学校現場では「マルチメディアDAISY教科書」は普及していますが、教科書による利用だけではなく、ふだんの読書活動でも活用してもらえるよう呼びかけました。

12月には障害者週間に合わせ、文字が読みにくいと感じている方に、読書を支援する機器を紹介し、体験していただく会を開催しました。拡大読書器や音声読書機、プレクストークなどの読書支援機器を体験してもらうとともに、

マルチメディアDAISY図書をiPadで体験してもらいました。

おわりに

今年度実施した体験会を通して、読むための障害を解消するサービスを図書館で行っていくことの意義を再認識しました。図書館が多様な読書方法を提示し、環境を整備することで、一人ひとりの方が自分にあった快適な環境で読書ができるよう、サービスの充実に向けた取り組みを計画的に進めていきたいと思っています。

